

わたし・仲間 再発見！

～つながり合える仲間づくりのために～

小学校

ねらい それぞれが考える仲間について話し合い、よりよい仲間づくりへの意欲を高める。
自分や仲間を見つめ直す取り組みをとおして、互いにわかり合い、つながり合える仲間づくりについて考える。

気づく

「なかま」ってなんだろう？

友だちに関する詩を読み、友だちについて考える。仲間とはどんなものが、具体的な意見をたくさん出し合う。

ゲームをしながら友だちと交流する。

留意点

- ・子どもの思いを知ることが大切にし、自分の価値観や考えを押しつけないように進めさせる。

友だちに関する詩の例；
「ひとりとおおぜい」
(小林純一)

ゲームの例；

*準備するもの：出し合った意見をもとに作成した50枚程度のカード

*進め方：

4～5人班で一人3枚ずつ配布。残りを中央に積む。

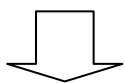
一人ずつ手持ちのカードを読み上げ、全員に見えるように並べる。

順番に中央の山から1枚ひき、引いたカードを読み上げる。

手持ちの4枚のうち、とても大事と思う3枚を残して1枚を捨てる。

何巡か繰り返し、自分の思いにできる限りぴったりくるカードを3枚集める。

なぜその3枚を選んだのか紹介し合う。



広げる・深める

どうしてわかりあえないの？～もめ事から考えよう～

もめ事具体例について意見交流を行う。
日常生活について振り返る。

留意点

- ・もめ事自体が悪いことではなく、それを通してわかりあうことが大切であることを確認する。

具体例に使う作文の例；

Aさんの作文

Bさんは、私が本を又貸ししたとかんちがいをして怒ってしまいました。

Bさんから貸してもらった本を机の上に置いてクラブに行っていたら、Cさんが勝手に読んでいたのです。Cさんは、本のことをBさんにしゃべってしまいました。わたしは、クラブが終わってからその事に気づいたのですが、Bさんはすごく怒っていて、わけを話しても信じてくれません。

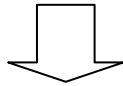
Bさんから本を借りなければよかったと思いました。そして、何だかいやな気持ちになりました。

Bさんの作文

Aさんのことがきらいになりました。それは、貸してあげた本を勝手に別の人に貸していたからです。わたしは、裏切られたような気持ちになりました。断りもなく、わたしの本を人に貸すなんて。

その本は、誕生日に買ってもらった大事な本なので、よけいにゆるせません。

Aさんに言ったら、言い訳をするだけで、謝ろうともしません。もう、わたしはAさんの顔も見たくありません。



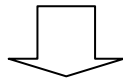
計画する

もっと知ってほしい もっとわかりたい

クラスの間みんながもっとわかり合うためにできることを考え、計画する。
もっとわかり合うための取り組み方法・期間・役割などを相談し、具体的に計画する。

留意点

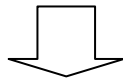
- ・今までわからなかったことも、相手の立場に立てば理解できることに気づかせる。
- ・方法・期間・役割を具体的に考えることで、相互理解を深める意欲を高める。
- ・人間関係に課題のある子どもについて特に配慮するとともに、その子どもをこの取り組みの核として進められるような助言をする。



実践する

さあ、始めよう「わたし・仲間 再発見!」(活動例)

わたしを見つめて	毎日の生活の中で	イベントで	新しい学びで
例) 教えて! わたしのこと ・家族からの手紙 例) 聞いて! わたしのこと ・学校外の生活紹介	例) 班から始めるわかりあい ・班ノートを回そう ・朝の学習の協力 ・帰りの会で班会議	例) 再発見発表会をしよう ・他己紹介 ・「得意なこと・宝物」発表会	例) 上手な気持ちの伝え方や もめ事の対処法を知ろう ・アサーティブな自己表現を学 ぶ ・実際のもめ事をみんなで解決 してみる



振り返る

わかったことからスタートしよう!

再発見したことを話し合い、感想をまとめる。

留意点

- ・わかったこと、できたことなどを中心に振り返り、子どもたちが「できる力」を自ら持っていることが感じられるようにする。
- ・特に、取り組みの核となった子どもの思いや行動を大切に、自尊感情が高められるように働きかける。
- ・学習活動を通じてわかったことを、日常生活での問題解決に生かしていくことが重要であることに気づかせる。

感想をまとめる中で、指導者は、一人ひとりに手紙を手渡すなどきめ細やかな励ましを行い、よりよい仲間づくりのための意欲を喚起する。

